

技術交流会

新里 勝也

1. 課題

魚類養殖について

2. 目的

県内各地において魚類養殖が取り組まれている中で、各地域内における技術は徐々に定着しつつある。しかし、他地域との交流及び情報交換は活発でなく、個々の判断で養殖管理及び販売を行っている面が多い。そこで、グループ活動により効果を納めている地域において交流することにより、お互いの技術及び販売戦略の向上を図ることを目的とする。

3. 交流及び視察場所

羽地漁協（塩屋、運天原）、本部漁協、読谷村漁協、知念村漁協、名護漁協、県栽培漁業センター

4. 日程

平成4年1月21日～22日

5. 参加人数

羽地漁協（漁業者6名、漁協職員1名）

本部漁協（漁業者7名、漁協職員2名）

読谷村漁協（漁業者1名、漁協職員2名）

知念村漁協（漁業者2名、漁協職員1名）

糸満漁協（漁業者2名、漁協職員2名）

久米島漁協（漁業者2名）

宜野座村漁協（漁業者2名、漁協職員1名）

読谷村2名

糸満市1名

水産業改良普及所2名

計 36 名

6. 交流状況

交流の内容としては部会等の概要、すなわち会員数、施設の概要、魚種、活動内容、出荷方法をお互いに報告してもらい、養殖状況を見学した。

以下に各部会の概要をまとめる。

1. 羽地漁協大宜味魚介類養殖組合

- ① 会員数 12人
- ② 生簀の規模 6 m角型32基、5 m角型14基
- ③ 養殖魚種 マダイ、ハマフエフキ、シモフリアイゴ、チンシラー
- ④ 活動内容
 - ・餌、種苗の購入、中間育成、網替え、出荷・販売を共同で行っている。
 - ・昨年からの釣り堀も始め好評である。
 - ・漁場保全のため生餌の使用は禁止している。
- ⑤ 出荷方法 ほとんどをシメ魚として仲買に出荷している。

2. 羽地漁協運天原養殖グループ

- ① 会員数 8人
- ② 生簀の規模 5 m角型80基
- ③ 養殖魚種 マダイ、ハマフエフキ、シモフリアイゴ、コガネシマアジ、チンシラー
- ④ 活動内容
 - ・餌、種苗の購入、出荷・販売を共同で行っている。
 - ・漁場保全のため生餌の使用は禁止している。
- ⑤ 出荷方法 ほとんどを活魚として仲買に出荷している。

3. 本部漁協栽培漁業生産部会

- ① 会員数 12人
- ② 生簀の規模 5 m角型10基、6 m角型10基
(波に対する耐性の強い木製の単位構造を増やしている。)
- ③ 養殖魚種 マダイ、ハマフエフキ、シモフリアイゴ、コガネシマアジ、シマアジ
- ④ 活動内容
 - ・部会による運営。カーテン生地で作った自製の出荷網やタモ網を用い、出荷時における目つき等を改善している。
- ⑤ 出荷方法 ほとんど活魚として仲買に出荷している。また地元の鮮魚店等にも供給している。

4. 糸満漁協魚類養殖研究グループ

- ① 会員数 5人
- ② 生簀の規模 5 m角型14基
- ③ 養殖魚種 マダイ、ハマフエフキ、シモフリアイゴ、コガネシマアジ
- ④ 出荷方法
 - ・グループによる運営。漁船漁業の地である糸満において、初めて魚類養殖事業に乗りだし、

南部まつりでは釣り堀で成果を納め、糸満ウミンチュの意識改革を図りつつある。

⑤ 出荷方法 活魚及びシメ魚として地元の仲買等に出荷している。

5. 知念村漁協魚類養殖研究グループ

① 会員数 6人

② 生簀の規模 7m角型9基、浮沈式2基

③ 養殖魚種 マダイ、ハマフエフキ、シモフリアイゴ、カンパチ

④ 活動内容

・港の中では環境が悪いとのことで、浮沈式生簀の試験中である。また木製の生簀で去年の台風をしのいだようである。

・一部天然のカンピチをパヤオから釣ってきて養成中である。

⑤ 出荷方法 ほとんどシメ魚として漁協のセリ及び仲買等に出荷している。

6. 読谷村漁協魚類養殖研究グループ

① 会員数 4人

② 生簀の規模 5m角型16基、浮沈式2基

③ 養殖魚種 マダイ、ハマフエフキ、シモフリアイゴ、コガネシマアジ

④ 活動内容

・今年から個人毎の運営に移行した。魚病対策に苦慮しているなかで沖合展開を図るべく浮沈式養殖施設の実証試験中である。

⑤ 出荷方法 ほとんどをシメ魚及び一次処理して地元のリゾートホテル等へ出荷している。

7. 宜野座村漁協魚類養殖研究グループ

① 会員数 2人

② 生簀の規模 5.5m角型5基、9m角型1基

③ 養殖魚種 マダイ、ハマフエフキ

④ 活動内容

・グループによる運営である。

⑤ 出荷方法 未出荷

8. 久米島漁協魚類養殖研究グループ

① 会員数 3人

② 生簀の規模 5m角型9基、10m角型1基

③ 養殖魚類 マダイ、ハマフエフキ、シモフリアイゴ、コガネシマアジ

④ 活動内容

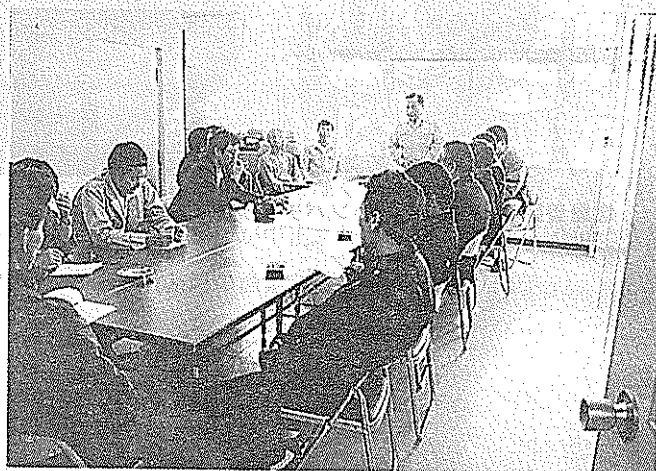
・グループによる運営である。

⑤ 出荷方法

・地元のリゾートホテル等へ出荷している。マダイは一括出荷した。

7. 所 感

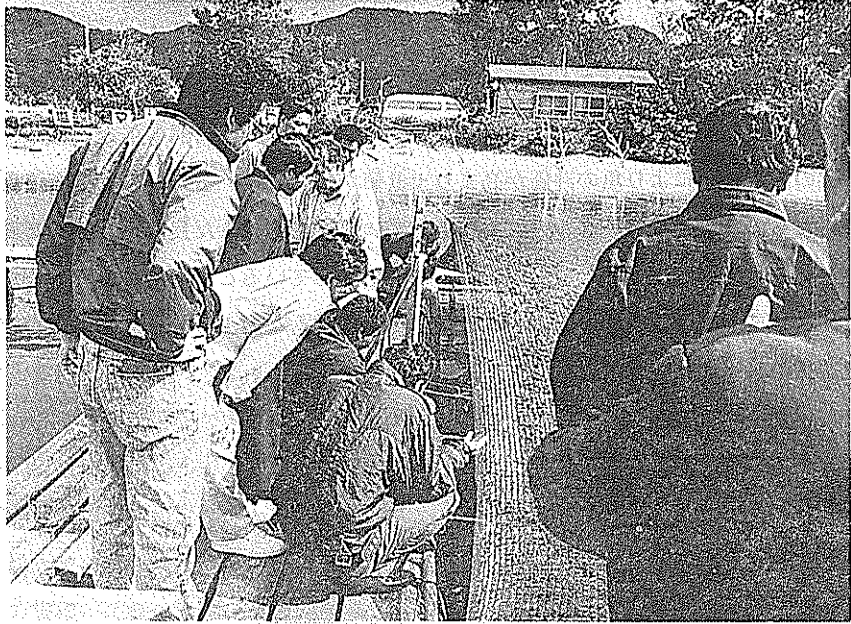
今回はとりあえず各地域の漁業者の顔つなぎになればということで実施した。しかし、各交流地で施設等を見、話しをしていると細かい点で参考になることが多かった。具体的には、羽地協協管内での事業の共同化や生餌の使用禁止など、本部漁協での出荷網の工夫による目つき対策、知念村漁協の沖合展開により魚の評価が高まりセリ値が向上していることなど相当の成果を参加者各自が得たものと思われる。グループで実施しているところはまだ良いが、個人で実施している所ほど自分の判断のみで養殖しており、誤った対応をしていることもあるようだ。また、ちょっとした工夫で技術の改善を図っていることも多く、今後もこのような交流を定期的にもつことにより県全体のレベルアップにつなげていく必要があると思われる。



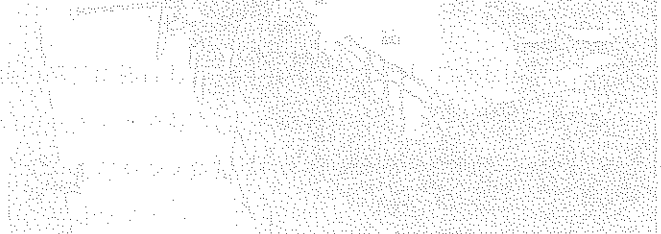
本部漁協（照屋漁協長より漁業概要の説明を聞く）



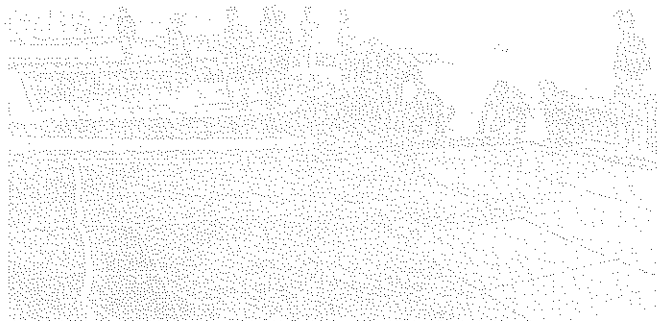
本部漁協養殖場（シマアジ・マダイ・カンパチ・タマン）



塩屋養殖場 (マダイ・カンパチ・シマアジ・タマン)



(左) 網を収めるための足踏み機 (右) 網を収めるための足踏み機



(左) 網を収めるための足踏み機 (右) 網を収めるための足踏み機

1. 交
- モ
2. 目
- の
- を行
- 生産
- 本
- いる
- 行な
- 作
- 生産
3. 1
- の
- 4.
- 5.
- 6.